

世界の空へ！海は近道 10周年を迎えた津なぎさまち

平成17年2月に津なぎさまちと中部国際空港を結ぶ高速船の海上アクセス拠点として開港した津なぎさまちは、平成27年2月に開港10周年を迎えました。津の港のこれまでのあゆみをご紹介します。

津なぎさまちのあゆみ

津の港はかつて、「安濃津」と呼ばれ、「日本三津（日本の三大港）」のひとつとして重要な港でした。しかし、1498年の明応の大地震によって港の機能が失われたと伝えられています。

津市では、平成17(2005)年2月17日の中部国際空港の開港に合わせ、高速船による海上アクセス拠点「津なぎさまち」を整備しました。

**平成17年2月17日
津なぎさまち 開港！**

中部国際空港の開港に合わせ、空港に向けた第1便が津なぎさまちを出発しました。



2月5日 竣功式 2月6日 開港祭

③ 度目の正直！

津のみなと 500年ぶりの復活

津にえざき・なぎさまちプラン

津なぎさまちの整備事業が第3次津市総合計画の基幹プロジェクトの一つに位置付けられました。

① 日中戦争により**中止**

② 戦災復興事業・台風13号（伊勢湾沿岸の堤防の大被害）の復旧を優先し**中止**

運航事業者の決定



市民の皆さんの署名活動

平成7年12月～平成8年1月

地元の自治会を中心に、海上アクセスと港湾計画の実現に向けた署名活動が行われ、8万9,219人の署名が集まりました。



当時の新聞記事

平成14～16年度
総事業費 約31億円

整備内容
三重県…防波堤、臨港道路などの整備
津市…旅客船ターミナル、駐車場などの整備
民間事業者…ベイス力を整備・運営

